

BZ
8
06

一部
一部配置

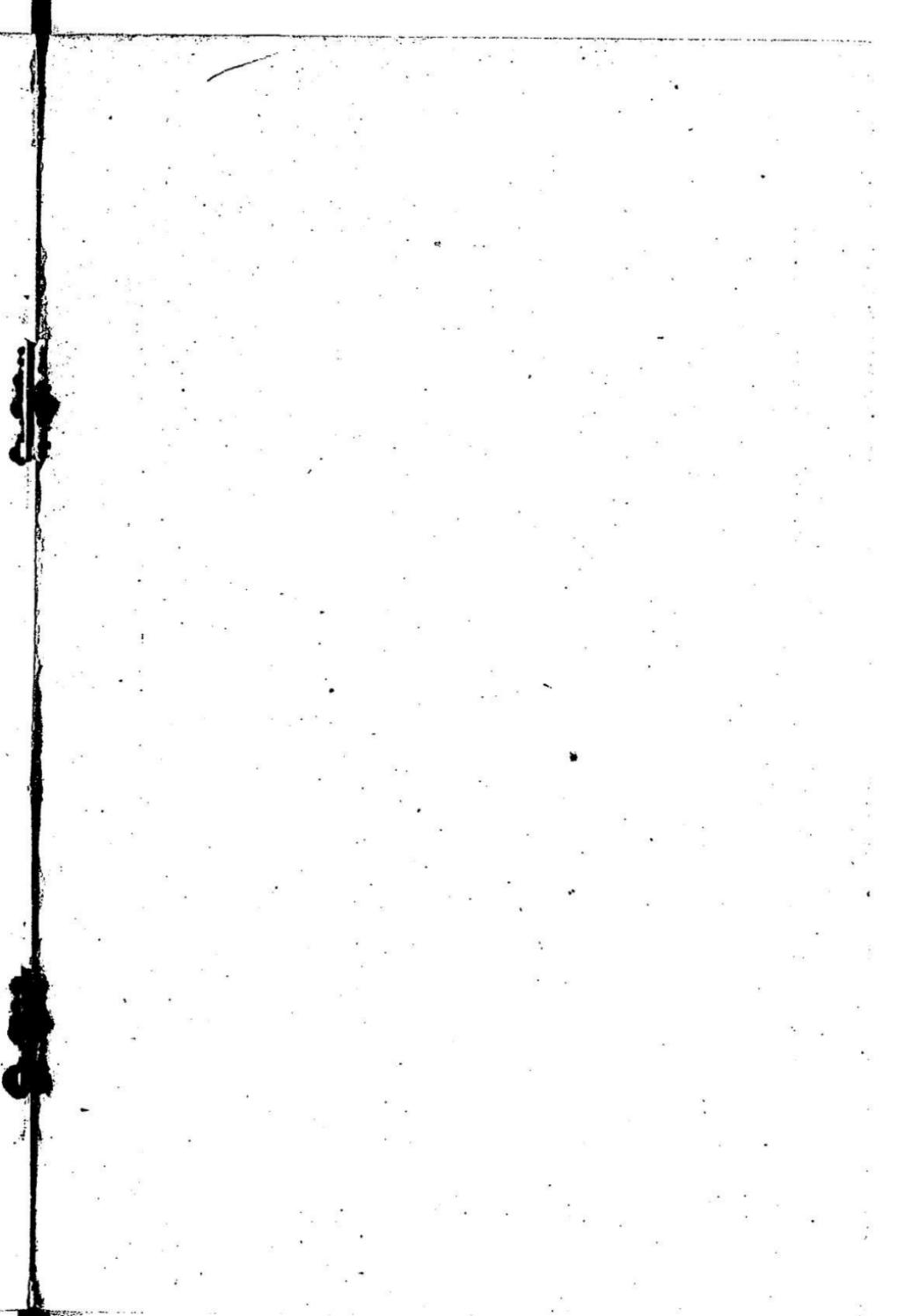
禁電

參 考 叢 書

英 國 憲 法

第 五

衆 議 院 事 務 局



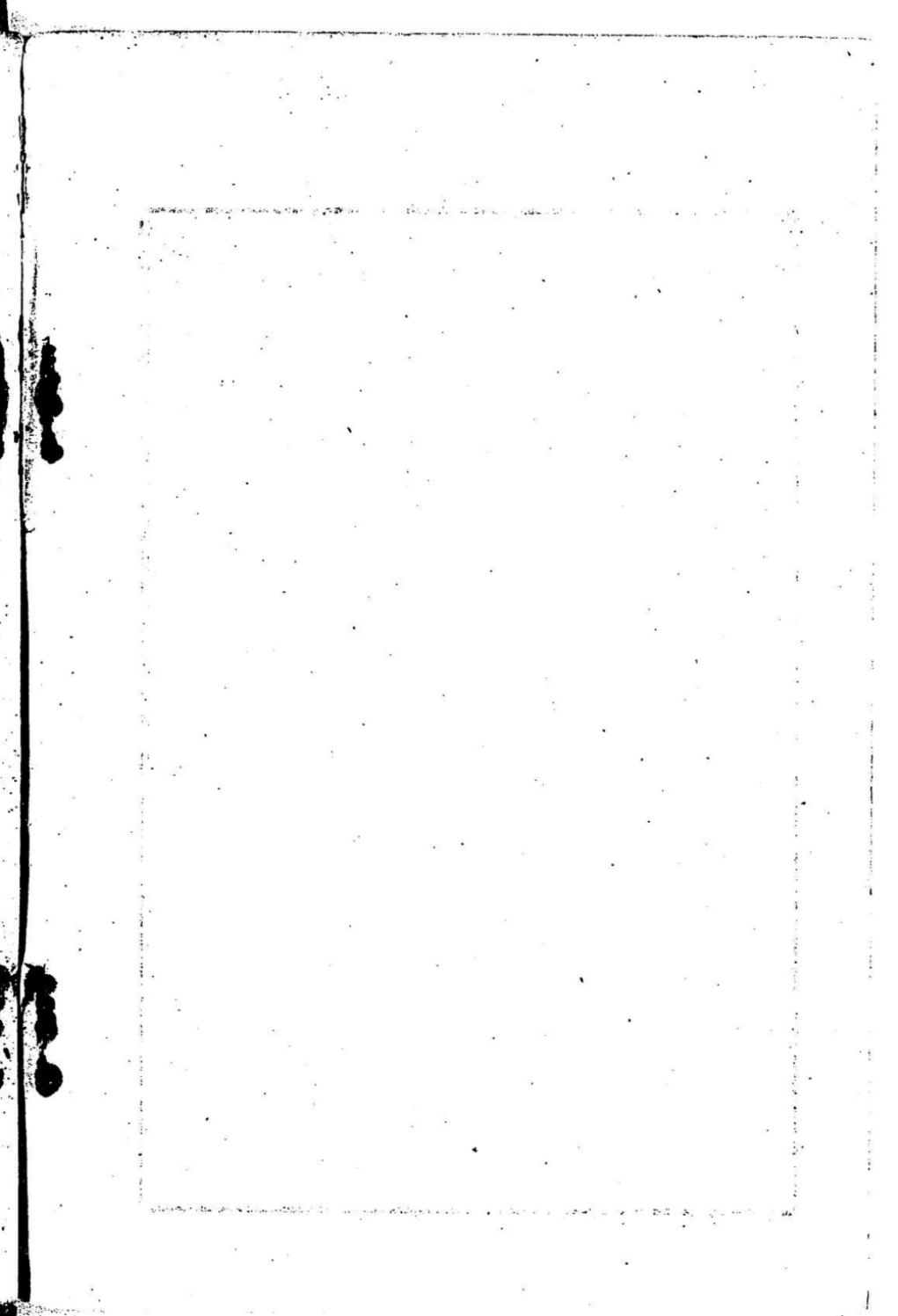
B2
8
06

參考叢書第五

目錄

- (一) 大憲章
(二) 權利請願
(三) 權利法典
(四) 皇位確定法

一
二十一丁
三十一丁
四十五丁



今此ニ翻譯スル所ノ大憲章、權利請願、權利法典ハ英人カ英國憲法ノ三經典ト稱スルモノニシテ英國憲法ノ神髓ナリ皇位確定法ハ右三經典ヲ補充スル所ノ大法典ナリ是等ノ法典ハ英國憲法中ノ要部ヲ組成スルモノナルニハ相違ナケレトモ之ヲ以テ英國憲法ノ全體ト見ルヲ得ス且是等ノ法典ハ後世ニ至リ修正シタル箇條モアリ又現今實行セサル箇條モアレトモ之ヲ指摘スルハ容易ノ業ニアラス故ニ此ニ舉クル所ノ諸法典ハ制定當時ノ儘ノモノナリ

英國憲法ノ運用自在ナル之ヲ欽慕セサルモノナカルヘシト雖モ英國憲法ハ學理ノ推究ニ因リテ成リタルニモアラス外國ノ法典ニ模倣シタルニモアラス又一朝政治上ノ變動ニ因リテ制定シタルニモアラス英國人ノ祖先ナルアシグロ、サクソン人カ其郷土ナル獨逸ニ於テ行ヒ來リタル制度慣習ヲ英國ニ移植シ歲月ト共ニ進歩發達シタルモノナレハ其ノ外形ノ不整ナル實ニ英ノ法學家アンソン氏ノ評ノ如シ其ノ評ニ曰ク我カ憲法ハ累代ノ主人カ其必要ナル部分タケヲ改造シタル家屋ノ如ク外觀ノ美ナシト雖モ實用ニ至リテハ其ノ妙ヲ得ト

此ノ如ク英國憲法ハ深ク其ノ根柢ヲ歴史ニ有スルヲ以テ其ノ外觀ノミヲ見テ以テ是非得失ヲ論スルヲ得ス況シヤ法理ト實例トハ往々符合セサルコトアルオヤ且英人ハ一般ニ保守的ノ性質ヲ有シ實利ヲ主トスルヲ以テ實際ニ不便ナラサルトキハ之ヲ法令ニ制定スルコトヲ爲サス故ニ法令ノ制定ハ必要已ムヲ得サルノ場合ニ限ルヲ以テ一度之ヲ制定スルトキハ容易ニ之ヲ變更セス縱令變更スルモ多クハ一部分ヲ改ムルニ止ル諸法典ヲ見ルニ孰レモ新事項ヲ規定スルコト稀ナリ大憲章、權利請願、權利法典皆然ラサルハナシ此ノ性質ハ實ニ英人ノ特有ニシテ歐洲諸國ハ屢々政治上ノ大革命ヲ經タルモ其風潮ニ犯サルゝコトナク數百年一日ノ如ク十九世紀ノ今日ニ至ルモ不文憲法ヲ以テ能ク其國體ヲ維持シ宇内ノ識者ヲシテ其ノ妙用ヲ感歎セシムル所以ノモノ實ニ此ニ存ス英國ノ制度ハ制度其ノ物ノ善美ナルニアラス其ノ妙ハ運用ニアリ然ルニ其ノ運用ノ妙ヲ見テ直ニ之ヲ其ノ制度ノ然ラシムル所ト爲シ其ノ制度ヲ採用シタリトテモ決シテ其ノ效果ヲ收ムル能ハサルハ歐洲諸國ニ鑒ミレハ明ナリ此ヲ以テ英國憲法政治ノ美妙ヲ知ラント欲セハ深ク之ヲ歴史ニ微シ廣ク之ヲ實際

ニ考へ而シテ後始メテ是非得失ヲ論斷セハ大過ナキニ庶幾ランカ
大憲章ハ一千二百十五年ジョン王治世第十七年ニ發布セラレタリジョン王卽位
ノ後屢々軍ヲ起シテ兵ヲ外ニ出シ常ニ敗ヲ取り遂ニ其ノ故領ノーマンデー公國
ヲ失フニ至レリ此ノ如ク軍旅常ニ起ルヲ以テ諸侯ハ奔命ニ疲レ困弊ヲ極メ從
軍ヲ厭フヲ以テ王ハ外國ノ傭兵ヲ以テ軍隊ヲ組織シ以テ外征ニ用ヒ之ニ支給
スル巨額ノ費ヲ要スルヲ以テ租稅ハ年々重キヲ加フルノミナラス或ハ強テ獻
納金ヲナサシムル等古來ノ慣習法規ニ違フノ行爲アリ此ニ於テ一千二百十三年
カンタベリー大僧正ラングトン大法官フヘツビータ等主唱者トナリテ諸侯
僧侶ノ集會ヲ開キ當時ノ弊政ヲ改革スルノ策ヲ議シヘンリー一世王ノ法典ヲ
基礎トシ之ニ依リテ以テ當時ノ弊政改革ヲ要請スルニ決シ一千二百十五年一月
六日諸侯同盟シテ兵ヲ率井テロンドンニ集リ改革案ヲ奉呈シ王ノ決答ヲ要求
セリ然ルニ王ハ熟考ノ爲メ數月ノ猶豫ヲ望マレ同盟諸侯モ之ニ從ヒタルニ其
ノ間ニ王ハ種々ノ手段ヲ以テ此ノ改革案ヲ撤回セシメント試ミラレタレトモ
行ハレス既ニ期限ニ達シタレハ同盟諸侯ハ僧侶ト連合シテ神威軍ヲ組織シ五

月二十四日ヲ以テロンドン城ヲ圍ミ城兵ハ門ヲ開テ之ヲ迎ヘリジョン王事ノ爲ス可ラサルヲ見テ後門ヨリ逃レテヲデヤムニ走ル從フ者僅ニ七人ナリト云フ此ニ於テ王ハ書ヲベンブローク伯ニ送リ改革案ノ商議ヲ開ク可キニ付其時日場所ヲ定ム可キヲ以テス伯答書シテ曰ク六月九日ランニメード原ニ於テ商議スヘシト然レトモ商議ハ六月十五日ニ延期スルコトハナレリ六月十五日ニ至リ王ハウインザ城ヨリランニメードニ出張セラレタリ從者十餘人而シテ神威軍ハ軍勢頗ル熾ニシテ諸侯僧侶ハ總テ之ニ與ミシタリ商議ハ直ニ開カレ六月十九日ニ至リ雙方ノ議漸ク熟シテ之ヲ憲章トナシランニメード原ニ於テジヨン王ハ會衆ノ面前ニ於テ玉璽ヲ鈐シタリ大憲章即チ是ナリ大憲章ハ諸侯及僧侶カ王ニ逼リテ得タルモノナレハ法典ト云ハンヨリ寧口契約書ナリ故ニ章中記スル所ハ諸侯僧侶ニ關スル事項多ク且此ノ憲章發布後モ國王屢々此ノ規定ニ違反シ殆ント空文ニ屬シタル時代ナキニアラサルモ英人カ此ノ憲章ヲ尊重スルコト今日ニ至ルモ衰ヘサル所以ノモノハ立憲ノ原理ノ法令ニ載セラレタルハ此ノ憲章ヲ以テ始トスレハナリ故ニ此ノ憲章ハ英國憲法ノ基礎ト云フモ

可ナリ

千六百三年エリサベス女皇崩御シ所出ナカリシヲ以テ遺言シテ蘇格蘭王ゼ
ムスヲ英國ノ王位ニ即カシム此ノ舉ハ英蘇兩國ノ人民ニ同一國王ヲ奉戴セシ
メ以テ兩國ノ合併ヲ計ラントセルエリサベス女皇ノ深慮ニシテ此ノ目的ハ達
セラレタレトモ之ヨリシテ政治上種々ノ困難ヲ生シタリ

英國ニ於テハ古代ヨリ慣習又ハ法令ニ依リ君主ノ權力ヲ制限シ特ニ徵稅ニ至
リテハ必議院ノ議決ヲ要スルハ時代ニ依リ多少ノ相違ハアレトモ國法ノ原則
タリシヤ疑ヲ容レス且大憲章ニ於テ徵稅ニハ議會ノ議決ヲ要スル旨ヲ明記シ
且臣民ニ各種ノ權利ヲ付與シタリ其後ヘンリー八世王及エリサベス女皇ノ如
キハ專横ノ行爲ナキニアラサレトモ孰レモ當代ノ英主ニシテ國威ヲ海外ニ燿
カシ歐洲ノ霸權ヲ掌握シタルヲ以テ敢テ其非ヲ議スルモノナク議會ハ常ニ國
王ノ顧使スル所ナリシ然ルニ蘇國ハ英國ト風俗慣習ヲ異ニスルノミナラスゼ
ムス一世王ハヘンリー八世王エリサベス女皇ト異ナリ英明果斷ノ氣質ナキ
ヲ以テ議會ハ之ヲ機會トシテ先代ニ蹊闊セラレタル權利ヲ恢復センコトヲ企

圖シタルヲ以テ千六百三年ヨリ千六百二十五年ゼームス一世王ノ崩御ニ至ル
 マテ政府ト議會トノ爭議ハ常ニ絶ユルコトナカリキ千六百二十五年チャーレ
 ス一世王位ニ即クニ及シテ議會ノ議決ヲ待タス徵稅シ或ハ政府反對黨ノ議員
 ヲ拘禁スル等專横ノ舉動多カリシ然ルニ佛蘭西ト戰端ヲ開キ軍費ヲ要スルコ
 ト至急ナルヲ以テ已ムヲ得ス議會ヲ召集シ軍費法案ヲ提出シ國王自ラ議院ニ
 出席シ其必要ナル理由ヲ説明セラレタレトモ庶民院ハ肯テ之ヲ議スルコトヲ
 ナサス直ニ特別委員ヲ選定シ請願ヲ記草セシメ稿成ルニ及テ直ニ之ヲ可決シ
 貴族院ニ送付セシニ貴族院モ亦之ヲ可決シタルヲ以テ國王モ已ムヲ得ス之ヲ
 裁可セラレタリ是レ即チ權利請願ニシテ其ノ名ハ請願ナレトモ其手續等ニ於
 テハ法律ト異ナルコトナシ此ノ請願ノ裁可ヲ經ルヤ庶民院ハ直ニ軍費法案ノ
 ミナラス數種ノ徵稅法案ヲ可決シタリ

千六百二十八年權利請願發布セラレタレトモ政府ト議會トノ紛爭ハ終ニ告ケ
 ス政府ハ屢々議會ヲ解散シ或ハ議員ヲ禁錮シ議會ハ之ニ對スル復讐トシテ豫
 算ヲ否決シ或ハ大臣ヲ彈劾シ互ニ相反抗シ其ノ極遂ニ王權黨ト民權黨トノ二

大黨ヲ生シ武器ヲ以テ勝敗ヲ争フニ至リ王黨遂ニ敗レ千六百四十九年チヤ一
レス一世王ハ民權黨ノ爲ニ非命ニ斃レ王國ハ變シテ共和國トナリタレトモ千
六百六十年ニ至リチヤーレス一世王ノ長子チヤーレス二世王再ヒ英國ノ王位
ニ即キ王國ヲ恢復シタリ然レトモ王及其弟ゼームス二世王ハ俱ニ暗主ニシテ
統御ノ才ナク遂ニ千六百八十八年ニ至リゼームス王位ヲ棄テ佛國ニ逃走スル
ニ至レリ此ニ於テゼームス二世王ノ甥ニシテ其女婿ナル阿蘭陀王ウイリヤム
ヲ迎立シ其ノ皇后メリーゼームス二世王ノ女ト共同シテ王位ニ登ルニ決セリ
此ニ於テ議會ハ權利法典ヲ謹決シ以テ王ニ奉呈シタリ王及女王ハ此ノ法典ヲ
承認シテ即位セリ

皇位確定法ハ皇位繼承ノ順序ヲ規定スルノミナラス國王ノ大權ニ制限ヲ附シ
彈劾ハ大權ヲ以テ之ヲ中止スルヲ得サルコト、爲シ以テ大臣ノ責任ヲ重カラ
シメタリ(彈劾ニ依リ刑罰宣告ノ後ハ大權ニ依リ之ヲ放免スルヲ妨ヶス)本法ハ
有給官吏ノ庶民院議員タルヲ禁シタルヲ以テ國務大臣モ議員ヲ兼任スルヲ得
サルニ至リタレトモ此ノ條ハ千七百五年左ノ如ク修正シタリ

庶民院議員ニシテ國王ヨリ利得アル官ニ任セラルゝ者ハ議員ノ坐席ヲ失フ
但舊選舉區ニ於テ再選セラルゝトキハ此ノ限ニ在ラス
樞密議官任用ノ箇條ハ千七百十一年之ヲ廢シタリ

譯者誌ス

参考叢書第五

大憲章(Magna Carta)(紀元一千二百十五年ジョン王即位第十七年)

天祐ヲ享有シタル英國王愛爾蘭大主ノルマンデー及アクリティーン公兼アンヂュ一伯ナル朕ジヨン此ニ汝等忠愛ナル大僧正僧正諸侯裁判官林務官地方官其ノ他諸有司臣庶ニ勅スルヲ欣フ朕ハ今神明ノ前ニ於テ朕ノ靈及朕ノ祖宗後嗣ノ靈ヲ救慰セムカ爲メニ又神明ノ顯榮ヲ表シ神聖ナル寺院ノ發達ヲ計リ朕カ國領ノ安寧ヲ増進セムカ爲メニ朕カ忠愛ナル諸師父卽チカンタベリノ大僧正英國統教者神聖羅馬寺院ノ長袖タルスチーブン、タブリンノ大僧正タルヘンリーロンドンノウヰリヤム、ウヰンチエスターノビーターバワス及グロストンブリノヂヨセリジ、リンコルンノヒュー、ウォルセスターノウォルター、コープントレーノウヰリヤム、ローチエスターノベネヂクト等諸僧正ニ諾リ又羅馬法王ノ副師親友タル司長バンドルフ英國寺士長タル師兄エイメリック及ベンプロンク伯爵ウヰリヤム、マレスコール、ソルスベリー伯爵ウヰリヤム、ウォーレン伯爵ウヰリヤム、アランデル伯爵ウヰリヤム、蘇格蘭長官アランド、ガロウエー及ウ

オーリン、フップグランド、ビリター、フッズ、ハーバード、ボイトーの式部長ハドバ
ード、ドバー及ヒューード、ネビル、マシュー、フッズ、ハーバート、トマス、バセット、アラン、
バセット、ブエリツブ、ラフ、アルロニー、ロバート、ドロツベル、ジョン、マレスチヨー
ル、ジョン、ブツツ、ヒューイ等諸貴族及其ノ他朕カ臣庶ト議シ此ノ憲章ヲ定メテ先
ツ神明ニ捧ケ朕及朕ノ後嗣ノ永遠ニ循行スル所ヲ確認シ之ヲ汝等ニ知ラシム
第一條 英國寺院ハ須ク自由ナルヘク須ク完全ナル權利ヲ有スヘク其ノ自由
ハ決シテ毀損セラレサルヘシ英國寺院ニ必要缺クヘカラサル選舉ノ自由ヲ
朕ハ此ノ憲章ヲ以テ許與確認シ且羅馬法王インノーセント第三世ノ確認ヲ
得タルヲ以テ此ノ自由ハ朕ト朕ノ諸侯トノ諍隙以前既ニ自由ノ意思ヲ以テ
許與シタルモノト見做シ尊重スヘシ而シテ此ノ憲章ハ獨リ朕カ準據スル所
タルノミナラス朕カ子孫亦永遠ニ遵由スヘキ所ナリ

第二條 朕ハ朕及朕カ後嗣ノ永遠ニ遵由スル所トシテ朕ノ王國ノ自由民ニ許
與スルニ次ニ記載スル諸自由ヲ以テシ朕及朕ノ後嗣ニ對シテ彼等及彼等ノ
子孫ノ永遠ニ享有スル所タラシム即チ諸侯以下臣庶ニシテ主トシテ兵役ヲ

以テ朕ニ仕フル者死亡シ當時其ノ繼嗣既ニ成年ニ達シ冥加税(Relief)ヲ納ム
ヘキ義務ヲ負フトキハ古例ニ從ヒテ此ノ税ヲ納メ以テ家督相續ヲ爲スコト
ヲ得ヘシ詳言スレハ伯爵ノ繼嗣タル者伯爵領(Earldom)全部ヲ相續スルニハ
百磅ヲ納ムヘク男爵ノ繼嗣タル者男爵領(Barony)全部ヲ相續スルニモ亦百磅
ヲ納ムヘク士族ノ繼嗣タル者士族知行地(Knights Fee)全部ヲ相續スルニハ最
高額百志ヲ納ムヘク其ノ他古例ニ於テ之ヨリ少額ナル税金(Fees)ヲ納ムルヲ
以テ足レル者將來ニ於テモ其ノ額ヲ以テ足レリトナスヘシ

第三條 然レトモ若シ右ノ繼嗣者當時尙未成年ニ達セス其ノ之ニ達スル時後
見ヲ有セハ別ニ冥加税ヲ出スコトナク又何等ノ免許料(Fine)ヲ拂フコトナク
シテ其ノ家督ノ相續ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第四條 斯ノ如キ未成年相續者ノ領土ノ管理者タル者ハ相當ノ收獲ヲ受ケ相
當ノ徵稅(Custom)徵役(Service)ヲ行フノ外其ノ領土ヨリ何等ノ徵收ヲ爲スヘカ
ラス又該領ニ屬スル人及物ノ毀損傷害ヲ爲スヘカラス若シ朕ニ於テ地方官
其ノ他該領土ノ收獲ニ付キ朕ニ對シ責任ヲ有スル者ニ斯カル領土ノ管理ヲ

委シ當該者之ニ對シ毀傷ヲ爲スコトアラハ朕ハ領主ニ對シ之ヲ辨償シ併セテ其ノ地ヲ以テ收獲ニ付キ朕ニ對シ責任ヲ負フ所ノ該領内ノ二名ノ適正且ツ確實ナル人ニ委ネ或ハ朕カ該收獲ノ事ヲ托スル所ノ者ニ委スヘシ而シテ若シ朕ニ於テ斯カル領土ノ管理ヲ或人ニ賣渡シ又ハ讓與シ之ヲ受ケタル者其ノ地ニ毀損傷害ヲ爲ストキハ當該者ハ其ノ管理權ヲ失ヒ前述ノ如ク朕ニ對シ責任アル該領ノ二名ノ適正且ツ確實ナル人之ヲ管理スヘシ

第五條 然レトモ管理者ハ其ノ領土ノ管理ヲ爲ス間ハ該地ノ收獲ト區別シテ家庭園牧蓄場池沼製粉舍其ノ他該地ニ屬スル物件ヲ保存スヘク而シテ相續者成年ニ達スルヲ待チ之ニ收獲季ノ必要トスル所ニ從ヒ耕具車輛等ヲ備ヘ其ノ領土全部ヲ引渡スヘク又該地相當ノ收獲ヲモ引渡スヘシ

第六條 相續者ハ何等ノ故障ナク結婚スルコトヲ得レトモ結婚ノ約束前相續者ハ血縁近き人々ニ之ヲ通知ヲ爲スヘシ

第七條 寡婦ハ夫ノ死亡後直ニ故障ナク結婚シ及遺產ヲ所有スルコトヲ得ヘシ寡婦ハ其ノ譲受遺產又ハ結婚又ハ其ノ夫及寡婦カ夫ノ死スル時ニ於テ有

シタル資産ニ付キテ何等ノ提供ヲモ爲スヲ要セス寡婦ハ夫ノ死後四十日間

第八條 凡ソ寡婦ハ其ノ夫ヲ有セシテ生活スルノ意志アル間ハ強テ結婚セシメラレサルヘシ然レトモ寡婦朕ニ直隸セハ朕ノ承諾ナクシテ結婚セサルノ擔保ヲ提供シ又領主ニ屬セハ其ノ領主ノ承諾ナクシテ結婚セサルノ擔保ヲ提供セサルヘカラス

第九條 朕及朕ノ官吏ハ負債者ノ動産ヲ以テ負債ヲ辨償スルニ足ル間ハ何等ノ負債ニ付テモ其ノ土地又ハ貸地料ヲ差押フルコトナシ又負債者ノ資力其ノ負債ヲ辨濟スルニ足ル間ハ保證人ニ義務ノ辨濟ヲ強ユルコトナシ若シ負債者負債ノ辨濟ヲ爲スノ資力ナクシテ之ヲ辨濟セサルトキハ初メテ保證人之ヲ辨濟スヘキ義務ヲ有ス保證人此ノ義務ヲ盡ストキハ負債者ヨリ其ノ辨濟スル所ノ償却ヲ受クルマテ負債者ノ土地及貸地料ヲ保有スヘシ但シ負債者ニ於テ保證人ニ對シ其ノ釋免ノ證明ヲ爲シ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 何人ト雖モ猶太人(Jews)ヨリ或物ヲ借入レ其ノ辨濟前ニ死亡シ其ノ

相續者成年ニ達セサル間該負債ニ對シ何等ノ利息ヲ仕拂フヲ要セス而シテ此ノ事タル其ノ土地領有ノ何種ニ屬スルヤヲ問ハサルナリ若シ又其ノ負債ニシテ朕カ手裡ニ來ルトキハ朕ハ唯タ其ノ證書面ニ記載スル動產ノミヲ收ムヘシ

第十一條 何人ト雖モ猶太人ニ對スル負債ヲ辨償セサル内死去スルトキハ寡婦ハ其ノ當然受クヘキノ遺産ヲ受ケ而カモ該負債ニ對シ何等仕拂ノ義務ヲ有セス若シ死者未成年ノ子女ヲ殘ストキハ之ニ授クルニ死者ノ資產ノ多寡ニ從ヒテ必要ナリトスル遺產ヲ以テスヘシ殘部ニ就テ尙ホ領主ニ仕拂フヘキ稅役ニ充ツルモノヲ扣除シ置キ然ル後猶太人ニ對スル負債ヲ仕拂フヘシ又此ノ仕拂ノ方法ハ猶太人外ノ債主ニ對シテモ同様タルヘシ

第十二條 凡ソ稅金(Soutage)又ハ補助金(Aids)ハ朕カ王國ノ全般會議ニ依ルニアラサレハ之ヲ朕カ王國ニ課スルコトナシ但シ朕カ身ヲ償フトキ朕ノ最長子ニ士(Knight)ノ冠ヲ加フルトキ及朕ノ最長女初婚ノトキハ此ノ限ニ在ラス是等ノ場合ニ於テハ之ニ對シ相當ノ補助金ヲ仕拂フヘキノ義務アルモノ

トス倫敦府ノ補助金ニ關シテモ亦右ノ例ニ準ス

第十三條 倫敦府ハ水上ニ關スルト陸上ニ關スルトヲ問ハス總テ其ノ古來ノ自由及自由ノ慣行ヲ持續スルヲ得ヘシ加之ナラス朕ハ此ニ更ニ進ムテ其ノ

他總テノ都府、市、邑、港モ亦其ノ總テノ自由及自由ノ慣行ヲ持續スルヲ准許ス

第十四條 前述三箇ノ場合以外ノ補助金及稅金ノ議定ニ關シ王國ノ全般會議

ヲ開設スルニ付テハ朕ハ各別ニ手書ヲ發シテ大僧正、僧正、僧侶及諸侯ヲ召集スヘシ其ノ他朕ニ直隸スル所ノ一切ノ衆庶ニハ朕ノ地方官ヨリ特定ノ期日内即チ少クトモ集會四十日前ニ於テ特定ノ場所ニ來ルヘキ旨ヲ通シ以テ之ヲ召集スヘシ又總テ斯ノ如キ召集ノ令狀ニハ必ス召集ノ理由ヲ宣言シ置クヘキモノトススク召集シタル上當日ノ事務ハ其ノ日ニ於テ出席者ノ助言ニ從ヒ必ス之ヲ遂行スヘク之ヲ行フニハ召集シタル諸員總テ出席セサルモ妨ケナシ

第十五條 朕ハ將來何人ニモ其ノ自由借地人(Free Tenant)ヨリ補助金ヲ徵スルノ權利ヲ許與セサルヘシ但シ其ノ一身ヲ賠フトキ其ノ最長子ニ士ノ冠ヲ

加フルトキ及其ノ最長女初婚ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス是等ノ場合ニ於テハ相當ナル補助金ヲ仕拂フヘシ

第十六條 何人ト雖モ士族知行地其ノ他自由借地ニ對シ其ノ從來負ヘル所ヨリ更ニ多クノ稅役ヲ負ハシメラルゝコトナシ

第十七條 普通法廷(Commun Plea)ハ朕ノ宮廷ニ伴ハス常ニ一定ノ場所ニ設置セラルヘシ

第十八條 「ノベルアッセーシャ」(Novel Disseisin)自由領地横審「モートドアンセスター」(Mort D'ancaster)依祖先ノ權利ニ關スル訴訟及「ダーレーン・プレセントメント」(Darrein Presentment)寺領讓與ニ關スル訴訟ノ三種ノ裁判ハ各其ノ郡ニ於テ之ヲ開クヘク其ノ方法ハ即チ次ノ如シ朕又ハ朕ノ國外ニ在ルドキハ朕ノ裁判長官(Chief Justiciary)ハ二名ノ裁判官ヲ年四回各郡ニ差遣ス此ノ裁判官ハ該郡民ノ郡内各地方ヨリ選出スル四名ノ士族ト合シ該郡内一定ノ場所及時期ニ於テ該巡回裁判所ヲ開設スヘシ第十九條 若シ各郡ニ於テ巡回裁判所開設ニ付キ定メタル期日内ニ判決スル能ハサル事項アルトキハ前述巡回裁判ニ從事シタル士族及自由領地者(Free

Holder)ニ就キテ事務ノ多少ニ從ヒ必要トナスタケノ數名殘留シ其ノ殘務ヲ處辨スヘシ

第二十條　自由民(Freeman)ハ些細ノ過失ノ爲メニ漫リニ處罰セラルヽコトナク宜シク其ノ過失ノ態様ニ因リテ之ヲ罰スヘシ大罪ニ付テモ罪惡ノ輕重ニ從ヒ犯人ニ其ノ幾許ノ所領地ヲ遺ズコトヲ要シ商人ニ在リテモ亦之ト同シク商品ヲ扣除シ與フヘシ奴隸若シ朕カ慈惠ノ下ニ來ルトキハ亦前例ニ依リテ之ヲ處分シ其ノ用具ヲ扣除シ與フヘシ凡ソ前來ノ處罰ハ良實ナル鄰祐ノ證言アルニアラサレハ之ヲ定ムルコトナカルヘシ

第二十一條　諸侯ハ同列貴族ノ證言ニ依ルノ外罰金ヲ科セラルヽコトナク又之ヲ科スルハ罪科ノ程度ニ依ルヘシ

第二十二條　凡ソ僧侶ハ前述諸人ノ割合ニ從ヒ其ノ俗領ニ對シ罰金ヲ科セラルヘク寺領ノ價格ニ從ヒテ之ヲ科セラルヘカラス

第二十三條　凡ソ市又ハ借地人(Tenant)ハ古來之ヲ行フノ責務アルニアラサレハ橋梁堤防ノ築造ヲ強ヰラルヘカラス

第二十四條 朕ノ地方官、警務官、檢視官(Coroner)其ノ他ノ官吏ハ國王ノ法廷ヲ開
クヘカラス

第二十五條 郡市町村ハ總テ古來ノ貸地料ヲ存シ毫モ増加ナルヘシ但シ朕
ノ直轄地ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 朕ヨリ俗領ヲ受クル者死去シタル場合ニ地方官又ハ朕ノ官吏ニ
於テ該死者カ朕ニ對シ負ヒシ所ノ債務ニ付キ朕ノ與ヘタル召喚狀ヲ示スト
キハ地方官又ハ官吏ハ適正ナル人ノ目前ニ於テ該負債ノ價格タケ死者ノ俗
領上ニ存スル動産ヲ押收登簿シ以テ朕ニ對スル負債ノ皆濟セラル、マテ何
等ノ物品ト雖モ其ノ領内ヨリ取出サレサルヲ計ルノ職權ヲ有スヘシ右ノ負
債ヲ辨濟シタル殘餘ノ資產ハ死者ノ遺言ヲ履行スル爲メ財產管理者ニ引渡
サルヘク若シ又右ノ如キ負債ナキトキハ死者ノ妻及子女ノ爲メ相當ノ配分
ヲ扣除シ残ル動産全部ヲ舉ケテ死者ノ用ニ充ツヘシ

第二十七條 若シ自由民無遺言ニテ死去スルトキハ其ノ動産ハ寺院ノ前ニ於
テ其ノ最近ノ親族及朋友之ヲ配分スヘシ但シ之ヲ以テ先ツ死者ノ負ヘル債

務ヲ辨償スヘキモノトス

第二十八條 凡ソ朕ノ警務官又ハ官吏ハ現ニ之ニ對シ金錢ヲ仕拂フカ將タ賣主ノ好意ヲ以テ其ノ義務ヲ免セラル、ニアラサレハ米穀其ノ他動産ヲ收受スヘカラス

第二十九條 凡ソ警務官ハ士族自ラ行ヒ又ハ其ノ適當ナル原由ニ因リテ自行フ能ハサル場合ニ於テ他ノ適任者ヲ以テ行フ所ノ城砦衛戍ニ對シ之ニ金錢ノ支出ヲ求ムヘカラス若シ朕自ラ士族ヲ率ヒ又ハ之ヲ軍隊ニ編入スルトキハ士族ハ朕カ命令ニ基キ軍務ニ從事スル間右ノ衛戍ヲ爲スノ責務ヲ有セサルヘシ

第三十條 朕ノ地方官官吏其ノ他何人ト雖モ運搬ニ用ユル爲メ自由民ノ車馬ヲ收用スルコトナカルヘシ但シ自由民ノ好意ニ基ツクトキハ固ヨリ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 朕及朕ノ官吏ハ所有者ノ承諾アルニアラサレハ朕ノ城廓其ノ他ノ用ニ供スル爲メ何人ヨリモ材木ノ類ヲ收用スルコトナカルヘシ

第三十二條 重罪ノ宣告ヲ受ケタル犯人ノ土地ハ朕唯タ一年有一日間保有シ
然ル後之ヲ該知行地ノ領主ニ引渡スヘシ

第三十三條 將來總テ堰ノ類バテームス河メッドウエー河其ノ他英國内何レ
ニ於テモ撤去セラルヘシ但シ海岸ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 將來「ブレシベ」(Præcipe)ト稱スル令狀ヲ發シ因テ以テ自由民ヲシ
テ其ノ法廷ニ訴フルノ餘地ナカラシムルカ如キ處置ヲ爲サルヘシ

第三十五條 賦カ國內ニ於テハ葡萄酒類麥酒類ノ量法ヲ一定ス穀物ノ量法モ
亦然リ倫敦量ヲ用ニ染物吳服類ノ尺度亦然リ幅二「ユル」ヲ定尺トス其ノ他秤
衡モ國內一樣ナルヘシ

第三十六條 將來ニ於テハ死傷檢視狀(Writ of Inquisition)ニ付キ何等ノ要求ヲ爲
サス自由ニ之ヲ交付シテ決シテ拒ムコトナカルヘシ

第三十七條 人若シ「フ井ーフーム」(Fee Farm)、「ソケージ」(Socage)又ハ「バゲージ」
(Bargee)是レ皆借地ノ名義ヲ以テ朕ノ土地ヲ有シ又士族所領ノ地ヲ有スルモ
朕ハ此ノ事ニ依リテ他人ノ知行地ニ就キ有スル相續管理又ハ土地管理ヲ爲

スコトナカルヘク又「フヰーフアーム」「ソケドジ」又ハ「バゲージ」其ノモノ、管理ヲモ爲サ、ルヘシ但シ士族ノ役務ハ其ノ「フヰーフアーム」ニ因リテ之ヲ朕ニ致スヘシ又朕ハ或者ノ刀劍弓矢ノ類ヲ朕ニ致スノ義務ヲ負ヒ朕ヨリ「ベチ」、「サーゼントリー」(Petty Sergeantly) 労等借地ヲ享有スルノ故ヲ以テ相續者管理權又ハ其ノ士族役務ニ依リテ他ヨリ有スル土地ノ管理權ヲ有セサルベシ

第三十八條 事實ヲ證明スル信スヘキ證人ナク唯當人一箇ノ申立ニ基キ官吏ハ人ヲ法律ニ照スヘカラス

第三十九條 同列(Peers)ノ適法ナル判決ニ基クカ將タ國法ニ依ルノ外自由民ハ妄リニ拘禁繫獄セラレ又ハ強奪セラレ又ハ法外ニ置カレ追放セラレ其ノ他何等ノ方法ニ出ツルヲ問ハス苟モ毀損セラル、コトナシ又右ノ方法ニ依ルニアラサレハ朕ハ自由民ノ地ニ履ミ入り又ハ其ノ地ニ軍勢ヲ送ルコトナシ

第四十條 朕ハ何人ニモ正義又ハ權利ヲ賣ラス又何人ニモ之ヲ拒マサルヘシ
第四十一條 凡ソ商賈ハ古ヨリ遵奉シ來リタル慣習ニ依リ賣買ノ業ヲ營ムニ付テ水陸何レヨリスルヲ問ハス安全ニ英國ヲ出入シ若クハ之ヲ滯留シ又ハ之ヲ

經過スルコトヲ得之ニ對シ毫モ不正ノ稅金ヲ課スルコトナカルヘシ但シ戰時又ハ該商賈ノ朕ト交戰中ナル敵國ノ民タル場合ハ此ノ限ニ在ラス若シ開戰ノ當初國內ニ斯カル商賈アルヲ見ルトキハ朕又ハ朕ノ裁判長官ニ於テ朕ノ商賈ハ該敵國ニ於テ如何ニ待遇セラル、ヤヲ知了スルマテ其ノ身體又ハ財產ニ毫モ損害ヲ加フルコトナク唯タ之ヲ拘禁シ置クヘシ而シテ若シ朕カ商賈該國ニ於テ安全ナルヲ知ラハ則チ敵國ノ商賈モ亦此ノ國ニ於テ安全ナルヘシ

第四十二條 將來何人タリトモ朕ニ對シ忠勤ノ義務ヲ缺カサル以上ハ水陸何レヨリスルヲ問ハス朕カ王國ヲ出テ、復安全ニ歸リ來ルヲ得ヘシ但シ戰時ニ於テ國家共同人安寧ノ爲メ當分之ヲ禁止スルハ此ノ限ニ在ラス又囚徒法外人(out law)ノ如キハ別ニ國法ニ依ルヘキモノニシテ敵國ノ人民及前條記シタル狀態ニ在ル商賈ノ如キト共ニ固ヨリ例外ナリトス

第四十三條 何人ト雖モウオーリンフォールド、ナツチンガム、ブーロン、ランカスターノ名譽ニ於テ奉還セル土地其ノ他總テ朕ノ管掌ニ歸シタル男爵領ノ

奉還地ヲ有シ死去シタルトキハ其ノ繼嗣ハ該地ソ男爵ノ手ニ在リタルトキ
之ニ對シ負ヘル所ニ異ナリタル何等ノ冥加稅何等ノ役務ヲ朕ニ仕拂フニ及
ハス朕モ亦男爵ノ有シタル方法ニ從ヒテ之ヲ有スヘシ

第四十四條 山林ニ關係ナキ者ハ將來普通ノ召喚狀ニ依リ山林裁判官ノ裁判
ヲ受クルコトナシ但シ既ニ訴ヘラル、所アル者又バ山林ニ關スル事件ニ付
テ拘禁セラル、者ノ保證人ノ如キハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 朕ハ國法ニ通曉シ之ヲ施行スルニ適スル者ニアラサレハ裁判官、
警務官、地方官又ハ官吏ニ任用スルコトナカルヘシ

第四十六條 凡ソ寺院ヲ創置シ英國王ノ與フル住職選舉權特許狀又ハ其ノ古
來ノ借地權ヲ有スル諸侯ハ住職缺位ノ場合ニ適當ニ之ヲ管理スルノ權ヲ有
スヘシ

第四十七條 凡ソ朕ノ世ニ於テ森林ニ編入シタルモノハ將來之ヲ復舊スヘシ
朕ノ世ニ於テ堤防ニ編入シタルモノモ亦同シ

第四十八條 凡ソ森林庭園、森林官庭園官、地方官及其ノ屬僚、河川及其ノ保護官

ニ關スル不法ノ慣習ハ將來各郡ニ於テ郡内ノ確實ナル人ニ依リ選舉セラレタル同區域内ノ宣誓ヲ經タル士族十二名之ヲ審查シ審查終リタル後四十日以内ニ全ク之ヲ廢止シ復タ復舊セサラシムヘシ且ツ此ノ事ニ付キテハ先ツ朕又ハ朕國外ニ在ルトキハ朕ノ裁判官ニ此ノ事ヲ知ラシムヘシ

第四十九條 朕ハ平和ヲ守リ忠節ヲ致スノ保證トシテ英國臣民ヨリ朕ニ差出シタル人質及證書ヲ速ニ還付スヘシ

第五十條 朕ハ各地方廳ヨリゲラードドアセースノ親族ヲ悉ク免黜シ將來彼等ヲシテ永ク英國内ニ地方管轄權ヲ有セサラシムヘシ朕ハ又衡平法裁判所ヨリエンゲラードドサイゴニー、アントリュー、ピーター、ガイオンヲ免黜シ尙ガイオンド、サイゴニー、ゼオフレード、マーチン兄弟フヰリツブ、マーク兄弟及其ノ姪ザオフレーラ斥ケ又彼等ノ家臣ヲモ免黜スヘシ

第五十一條 朕ハ平和ノ恢復スルヤ直チニ兵馬ヲ具シテ此ノ國ニ來リ朕ノ人民ニ害ヲ爲ス外國士卒、十字弓隊、雇兵ヲ悉ク國外ニ放還スヘシ

第五十二條 凡ソ同列ノ適法ナル判決ニ依ラスシテ朕ノ爲メニ土地城砦、自由、

權利ヲ押領剝奪セラレタル者アラハ朕ハ將來速ニ之ヲ還付スヘシ若シ此ノ事ニ付キ爭議起ルトキハ其ノ判定ヲ下條記ス所ノ國安維持ヲ以テ委任スル二十五名ノ侯伯ニ委スヘシ又同列ノ適法ナル判決ニ依ラスシテ朕ノ父ヘンリ・王又ハ朕ノ兄リチャード王ノ爲メニ押收剝奪セラレ今現ニ朕ノ手ニ在リ又ハ他人ノ手裡ニ歸シタル物ニシテ朕ニ保固救正ノ義務アルモノニ付テハ朕ハ通常十字軍從軍者ニ許サレタル期限ノ猶豫ヲ受クヘシ但シ現ニ訴訟中ノ物件又ハ十字遠征ヲ企テタル前朕ノ命令ヲ以テ既ニ審理シタル物件ハ此ノ限ニ在ラス然レトモ朕若シ遠征ヨリ歸リタルカ又ハ萬一國內ニ止リ遠征ニ出テサルトキハ朕ハ速ニ之ヲ救治シテ充分ナル正義ヲ行フヲ怠ラサルヘシ

第五十三條 朕ノ父ヘンリ・及兄リチャードノ命令ニ依リテ森林ニ編入シタルモノヲ廢止スルニ付テモ前條ノ猶豫ヲ存スヘシ(正義ヲ操行シ森林ヲ廢シ將タ之ヲ引續キ貸付スルニ付キテ總テ前ト同方法ニ依ル)又從來朕カ士族役務ノ代料トシテ所有シタル知行地ナルノ故ヲ以テ其ノ後見權ヲ有シ來リタ

ルモノト同様ノ方法ヲ以テ朕他ノ知行地ノ保管ヲ爲スコト及朕ノ直轄地外ノ知行地ニ創設セラレタル寺院ニシテ該地ノ領主之ニ權利ヲ有スト主張スルコトニ付テハ其ノ救治ヲ猶豫スルコト前例ニ同シ朕十字軍遠征ヨリ歸リ來ルカ將タ此ノ國內ニ止マリテ出征セサルトキハ朕ハ是等ノ事ニ關シ速ニ其ノ救正ノ道ヲ計ルヲ怠ラサルヘシ

第五十四條 夫ノ死ニ關スル場合ヲ除キ凡ソ人ノ死ニ付キ起シタル婦女ノ訴ニ基キ人ヲ拘禁繫獄スルコトナカルヘシ

第五十五條 凡ソ朕ノ定メタル不正不法ノ罰金及國法ニ背反シテ科シタル過怠金裁判官臨時其ノ額ヲ擅断スル點ニ於テ罰金ト異ナレリハ悉ク之ヲ廢止スル必然ラサルモ之ヲ下條記ス所ノ國安維持ノ任アル二十五諸侯若クハ其ノ多數トカンタベリー大僧正スチーブン(出席スルコトヲ得ハ)及其ノ共ニ職ヲ行フニ適セリト爲ス者ト合議シテ行フ所ノ判定ニ委スヘシ若シ又スチーブン出席スル能ハサルコトアルモ此ノ職務ハ著々進行スヘシ然レトモ若シ前述二十五諸侯中一人タリトモ同事件ニ於ケル原告タル者アルトキハ其ノ

事件ニ關スル事務タケ該人ヲ忌避シ二十五諸侯ノ職員ハ別ニ其ノ補闕員ヲ選舉シ其ノ事件ヲ判定スルノ誓ヲ爲サシムヘシ

第五十六條 同列ノ適法ナル判定ナクシテウエールス人ヨリ其ノ英國ニ在ルモノトウエールスニ在ルモノトヲ問ハス土地自由其ノ他ノ物件ヲ押領剝奪シタルトキハ朕ハ速ニ之ヲ復舊スヘシ若シ此ノ事ニ關シ爭議生スルトキハ英國及ウエールスノ境ニ於テ同列之ヲ判定スヘシ而シテ其ノ遵依スル所ハ英國ニ於ケル借地ニ付テハ英國法ニ從ヒウエールスニ於ケル借地ニ付テハウエールスノ法ニ從ヒ兩國境ニ於ケル借地ニ付テハ其ノ國境ノ法ニ從フヘシ而シテウエールス人ハ亦朕及朕ノ臣民ニ對シ右ノ如ク爲スヘシ

第五十七條 ウエールス人カ同列ノ適法ナル判定ニ依ラスシテ父ヘンリー王又ハ兄リチャード王ノ爲メニ押收剝奪ゼラレタルモノニシテ朕現ニ之ヲ有シ又ハ他ノ有ニ屬シ朕ニ於テ之ヲ保護スルノ義務アル總テノ物件ニ付テハ朕ハ一般ニ十字軍從軍者ニ許サレタル期限ノ猶豫ヲ受クヘシ但シ現ニ訴訟中ノ物件又ハ十字軍遠征ヲ企テタル前朕ノ命令ヲ以テ既ニ審理ヲ爲シタル

物件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス然レトモ朕若シ遠征ヨリ歸リタルカ又ハ遠征ニ臨マスシテ國內ニ止マルトキハ朕ハウエールス其ノ他前記各地ノ法ニ從ヒ速ニ之ニ充分ノ正義ヲ行フヘシ

第五十八條 朕ハ猶豫ナクレウエリンノ子其ノ他總テノウエールスノ人質ヲ釋放シ又ウエールス人カ平和ノ保持ニ付キテ朕ト締結シタル約束ノ義務ヲ彼等ニ免スヘシ

第五十九條 朕ハ蘇格蘭王アレキサンダーノ姉妹、人質、權利、自由ヲ之ニ還付スルニ英國貴族ニ對スルモノト同一ノ方法ヲ以テスヘシ但シ蘇格蘭國王ナリシ彼レノ父ウヰリヤムヨリ朕ノ受ケタル特約ニ依リ其ノ正ニ然ラサルヲ要スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス此ノ事ノ如何ハ在廷ノ貴族ノ判定ニ任スヘシ

第六十條 此ノ王國ハ朕ニ屬スルヲ以テ僧トナク俗トナク苟モ朕ノ王國ノ人民タル者朕ノ王國ニ於テ有スル所トシテ許與シタル前來序スル總テノ慣習自由ハ其ノ關係スル點ニ於テハ彼等人民ノ隸屬ニ對シテ亦之ヲ遵行スヘシ

第六十一條 神明ノ顯榮及王國ノ改進ノ爲メ又朕ト朕ノ諸侯トノ間ニ起リタ

ル不和ヲ解カムカ爲メ朕ハ以上數項ノ事ヲ允許シタリ朕ハ此ノ事ヲ確實永遠ナラシメムコトヲ欲シ此ニ朕ノ臣民ニ與フルニ下記ノ保證ヲ以テス卽チ諸侯ハ國內ニテ其ノ適任ト認ムル二十五名ノ諸侯ヲ選舉シ被選者ハ力ヲ盡シテ朕カ彼等ニ許與シ此ノ憲章ヲ以テ之ヲ確認シタル平和及自由ヲ保持遂行スルニ注意シ又人ノ之ヲ遵行スルヲ計ルヘシ若シ朕又ハ朕ノ裁判官官吏其ノ他諸有司ニシテ如何ナル狀況ニ於ケルト如何ナル人ニ對スルトヲ問ハス右ノ義務ヲ行ハサルカ將タ其ノ何タルニ拘ラズ平和安固ニ關スル箇條ヲ破リ而シテ其ノ罪前記二十五名ノ諸侯中ヨリ更ニ選ハレタル四名ノ諸侯ノ知ル所トナルトキハ其ノ四諸侯ハ朕ニ若シ朕國外ニ在ルトキハ朕ノ裁判長官ニ其ノ苦情ノ趣旨ヲ開陳シテ速ニ救濟セラレムコトヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ事ノ朕或ハ裁判長官ニ告知セラレタル日ヨリ計算シ四十日以内ニ朕之ニ救濟ヲ與ヘサルカ或ハ朕ノ國外ニ在ルトキ朕ノ裁判長官之ニ救濟ヲ與ヘサルトキハ四名ノ諸侯ハ其ノ旨ヲ二十五名諸侯中ノ殘員ニ告白スヘシ此ノ場合ニ於テ二十五名ノ諸侯ハ其ノ苦情ノ救濟其ノ望ム所ノ如クナラ

サル間ハ全國ノ衆庶ト共ニ朕カ城廓土地其ノ他ノ所領ヲ押フル等彼等ノ能クスル百方ノ手段ヲ盡シテ朕ヲ掣肘強迫ズヘシ但シ朕竝ニ朕カ后及子女ノ身體ハ毫モ犯スヘカラス又苦情ノ救正ヲ得タルトキ諸侯ハ舊ノ如ク朕ニ服従スヘシ又王國內ニ在ル者ハ其ノ何人タルヲ問ハス前掲ノ權利ヲ執行スルカ爲ミニ二十五諸侯ノ命令ニ從ヒ且ツ彼等ニ力ヲ協セテ出來得ヘキタケ朕ヲ掣肘スルコトヲ誓約スルヲ得ヘシ朕ハ斯ノ如キ誓約ヲ爲サント欲スル者ニ完全ナル自由ヲ與ヘ敢テ之ヲ妨クルコトナカルヘシ

第六十二條 上記ノ如ク二十五諸侯ト協同シ朕ヲ掣肘強迫スルヲ欲セサル朕ノ臣民ニハ朕之ヲシテ上記ノ誓約ヲ爲サンムルノ命令ヲ發スヘシ又若シ二十五諸侯中死亡者アリ或ハ國外ニ出ツル者アリ其ノ他何等ノ方法ニ由ルヲ問ハス苟モ上記ノ權利ヲ實行スルヲ妨ケラル、コトアルトキハ二十五諸侯中故障ナキ者其ノ意見ニ依リテ適當ノ補闕員ヲ選定スヘシ此ノ場合ニ於テ補闕員ノ誓約ハ他ノ諸侯ノ爲ス所ニ等シ又右二十五諸侯ノ行フ所ニ任シタル或件ニ付キ其ノ全員集會シタル場合ニ於テ衆議一決セサルカ將タ彼等ノ

中招集セラレタルニ故ラニ出席セサル者アルガ或ハ出席スル能ハサル者アルトキハ出席員多數ノ議ニ由リテ一決セル所ヲ以テ二十五諸侯全員ノ同意ヲ得タルモノト同シク確實且ツ有效ノモノト見做スヘシ二十五侯伯ハ各自誠意ニ總テ上記ノ條項ヲ遵守シ且ツ其ノ力ヲ盡シテ之ヲ他ニ遵守セシムヘキコドヲ誓フヘシ朕ハ朕自ラ將タ人ヲ以テ上記許與セル自由ノ依リテ以テ廢止セラレ將タ減少セラルヘキ權能ヲ取得スルコトナク若シ又之ヲ取得スルモ全ク無效タラシメ敢テ朕自ラ將タ人ヲ以テ之ヲ使用スルコトナカルヘシ朕ト諸侯ト爭議ノ端ヲ開キシヨリ以來朕及僧俗ノ臣庶間ニ起リタル悪感憤怒怨恨ハ朕悉ク之ヲ宥免シテ復タ問ハサルヘシ加之ナラス朕ノ治世第十五年ノ基督更生祭(Easter)祭日ノ名ヨリ平和靜謐ノ恢復シタル日ニ至ル間ニ朕ト諸侯トノ間ニ於ケル爭議ニ由テ生シタル總テノ犯行ハ朕之ヲ僧俗一切ノ臣僚ニ宥免シ其ノ朕ニ關ル所ハ復タ問フコドナカルヘシ朕ハ彼レ等ノ爲メニカンタベリー大僧正スチーブンダブリン大僧正ヘンリー其ノ他前記ノ諸僧正及司長バンドルフノ證認スル所ノ前記諸條項ニ關ル勅狀ヲ作ラシメ

第六十三條 肢ハ茲ニ於テ確然英國ノ寺院ハ自由ナルコト朕カ王國內ニ在ル者ハ其ノ何人タルヲ問ハス彼等自身ヨリ其ノ子孫ニ至ルマテ總テノ物件及場所ニ於テ朕自身及朕ノ子孫ヨリ總テ前記ノ自由權利許與ヲ眞成且ヅ平和ニ自由且ヅ靜穩ニ且ヅ完全無缺ニ享有シテ萬世渝ハルコトナキコトヲ令ス
朕ハ又諸侯ト共ニ善意ニ且ヅ疾惡ノ情ナク前記諸條項ヲ遵守スヘキコトヲ誓フ

朕ノ治世第十七年六月十五日ウヰンザー及ステーンス間ノランニメードト
稱フル原野ニ於テ上記證人其ノ他多衆ノ面前ニ於テ朕自ラ名ヲ署シ茲ニ此
ノ憲章ヲ附與ス

權利請願(Petition of Right)(紀元一千六百二十八年チャーレス第一世王卽位
第三年)

本期集同ノ議會ニ於テ僧俗貴族及庶民カ臣民ノ種多ノ權利、自由ニ關シ國王陞

下ニ呈出シ之ニ對シテ全議會ニ於テ陛下ノ勅答ヲ得タル請願

第一條 集同シタル議會ニ於ケル僧俗貴族及庶民誠惶誠恐至尊ナル我カ國王
陛下ニ奏ス曩キニエドワード一世王陛下ノ朝ニ於テ制定セラレタル通常
ニ無承諾課稅ニ關スル法ト稱スル法令ヲ以テ凡ソ此ノ國ニ於テ國王又ハ其
ノ繼嗣ノ租稅又ハ補助金ヲ賦課徵收セラル、ハ必ス此ノ國ノ大僧正僧正諸
侯士族市民其ノ他衆庶ノ任意ノ承諾ヲ要スルモノト爲セリ又エドワード第
三世王陛下ノ御宇第二十五年ニ開設セラレタル議會ニ於テ將來何人ト雖モ
其ノ意ニ反シテ國王ニ金銀ノ貸附ヲ爲スコトヲ強井ラル、コトナシト定メ
タリ其ノ理由ハ斯ノ如キ貸附ハ道理及此ノ國ニ於ケル權利ニ悖戾スルヲ以
テナリ又他ノ法令ヲ接スルニ何人ト雖モ冥加稅(Benevolence)ト呼ハル、賦課
其ノ他同類ノ義務ヲ負ハシメラル、コトナシト定メ居レリ要スルニ前記諸
法及他ノ良法ニ依リテ古來陛下ノ臣庶ハ議會ニ於ケル共同ノ承諾ヲ以テ賦
課セラル、モノニアラサレハ何等ノ租稅補助金其ノ他ノ義務ヲ負擔スルコ
トヲ強井ラレサルノ自由ヲ有スルヤ明ケシ

第二條 然ルニ近來種々ノ委員ニ雜多ノ委任訓示ヲ與ヘ之ヲ諸郡ニ派シ以テ各所ニ陛下ノ人民ヲ招集シ彼等ニ要スルニ資財ヲ陛下ニ致スコトヲ以テシ多數ノ人民ハ之ヲ肯セサルノ故ヲ以テ國法ノ保障セサルニ徒ニ彼等ニ對シテ誓詞ヲ爲スコトヲ強井ラレ陛下ノ樞密院其ノ他ノ場所ニ出頭シ陳辯スルノ義務ヲ負ハシメラレ或ハ之カ爲メニ禁錮繫留ノ辱ヲ受ケ其ノ他種々ノ妨害煩累ヲ蒙レリ又知事副知事治安裁判官其ノ他有司ハ陛下又ハ樞密院ノ命令ニ依リ國ノ法律及自由慣習ニ反シ諸郡ニ於テ種々ノ他ノ賦課ヲ人民ニ負擔セシメタリ

第三條 又英國ノ自由ノ大憲章ト稱スル法律ハ凡ソ自由民ハ同列ノ適法ノ裁決又ハ國法ニ依ルノ外捕縛拘禁セラル、コトナク其ノ所領自由又ハ自由ノ慣習ヲ褫奪セラル、コトナク法外ニ排斥セラレ又ハ放逐セラル、コトナシ

ト規定シタリ

第四條 又エドワード第三世王ノ御宇第二十八年ニ於テ議會ハ法令ヲ布キテ凡ソ人ハ其ノ如何ナル財產ヲ有シ如何ナル狀態ニ在ルヲ問ハス法律上ノ手

續ニ於テ答辯ノ機會ヲ與ヘラル、ニアラサレハ其ノ所有地又ハ借地ノ外ニ逐ハレ或ハ捕縛拘禁セラレ將タ絶家セラレ又ハ死ニ致サル、コトナシト定メタリ

第五條 然ルニ右法令其ノ他此ノ事ニ關スル此ノ國ノ良法ノ規定ニ悖リ陛下ノ臣民中近來其ノ理ヲ示サレスシテ漫リニ拘禁セラレタル者多シ加之ナラススカル囚人ヲ釋放スルカ爲メニ彼等陛下ヨリ發シ玉フ人身保護狀ニ依リ裁判官ノ前ニ送致セラル、時ハ裁判所ノ命令ニ依リ處分ヲ行フカ爲メニ其ノ保監者拘禁ノ理由ヲ證明スヘシト命令セラル、モ敢テ何等ノ原由ヲ證セス唯タ陛下ノ樞密院ノ副署ヲ備フル陛下ノ特命ニ依リ之ヲ抑留シタルノミトナス然カモ此ノ場合ニ於テ彼レ等囚人ハ或罪科ヲ以テ論セラレ之ニ對シテ法律ニ從ヒ答辯ヲ爲スコトヲ許サル、コトナク囹圄ニ逐還セラレタリ

第六條 又近來多數ノ陸海軍兵ヲ全國諸郡ニ分派シ住民ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ其ノ家宅ニ宿舍セシムルコトヲ強井ラレ尙本國ノ法律慣習ニ悖リ人民ノ疾苦ヲ顧ミス引續キ永宿セシメタリ

第七條

又エドワード第三世王ノ御宇第二十五年ニ於ケル議會ノ權能ニ依リ

凡ソ何人ト雖モ大憲章及國法ニ背キ其ノ生命肢體ニ關スル裁判ヲ受クルコトナシト定メ又同法其ノ他ノ國法ヲ以テ凡ソ人ハ國ノ慣習ニ依ルト議會ノ法制ニ出ツルトヲ問ハス苟モ此ノ國ニ設定セラレタル法律ニ基クノ死刑ニ處セラル、コトナシト定メ又如何ナル種類ノ犯罪人ト雖モ此ノ國ノ法律ノ定ムル裁判手續及罰法ヨリ除外セラレ別段ナル方法ヲ適用セラル、コトナシト定メタリ然ルニ近來陛下ノ御璽ノ下ニ種々ノ委任狀ヲ發セラレ之ニ依リテ或者ニ下記ノ權能ヲ附與シ其ノ委員タラシメタリ即チ陸海軍人其ノ他之ト共勵スル横行者ヲシテ殺人罪強盜罪暴動罪其ノ他重輕罪ヲ犯ス者アルトキハ戰時法ノ正義ニ從ヒ其ノ所在地ニ進行シ戰時法ニ適シ戰時軍中ニ於テ用ヰラル、カ如キ簡易ナル手續順序ヲ以テ斯カル犯人ノ審判處斷ヲ實行シ戰時法ニ依リ之ヲ死刑ニ處スルコトヲ得セシ、メタリ

第八條

右ノ委任ニ託シテ陛下ノ臣民中既ニ右委員ノ爲メニ死刑ニ處セラレタル者アリ其ノ場合ハ即チ國ノ法律ニ於テ死刑ヲ以テ論スヘキ者ナリセハ

宜シク之ヲ以テ裁判處分スヘク決シテ他ノ法ニ依リテ裁斷實行スヘキモノニアラス

第九條 又之ニ反シテ種々ノ醜惡ナル罪人ハ右委任ノ旨ニ托シテ巧ニ除外
(Exemption)ヲ要求シ陛下ノ諸有司裁判官等カ不當ニモ斯カル犯人ハ唯戰時法ニ依リテ前記委員ノ權能之ヲ處斷スルヲ得ルノミト主張シ國法ニ從ヒテ之カ處分ヲ行フコトヲ拒否シ又ハ避ケタルノ故ヲ以テ陛下ノ國土ノ法律上當然受クヘキノ刑罰ヲ免レタリ此ノ如キ委任ノ類ハ悉ク此ノ陛下ノ國土ノ法律ニ背戾スルコト甚太シキモノナリ

第十條 臣等是ヲ以テ今誠惶誠恐聖明ナル至尊陛下ニ請フニ次ノ諸件ヲ以テス卽チ將來ニ於テハ何人ト雖モ議會ノ行爲ヲ以テ表明スル一般ノ承諾アルニアラサレハ何等ノ贈與、貸付、冥加金、稅金其ノ他一切之ニ類似ノ負擔ヲ爲スヲ強井ラル、コトナク又何人ト雖モ此ノ事ニ付キ又ハ之ヲ拒ミタルニ付キ又ハ誓約ヲ爲シ或ハ出席スルコトヲ强迫セラル、コトナク又拘禁其ノ他ノ妨害ヲ蒙フルコトナク自由民ハ總テ前來記載シタル方法ヲ以テ掣縛拘禁セ

ラル、コトナシ又陛下ハ前記陸海軍兵ヲ撤去スルニ異議アラセ玉マハス陛下ノ臣民ヲシテ將來前記ノ如キ重務ヲ負フコトナカラシムヘシ又前記戰時法ノ手續ニ關ル委任ハ全ク無效タラシメ將來斯カル性質ノ委任ハ前記ノ如ク施行セラル、カ爲メ何人ニモ之ヲ授クルコトアルヘカラス是レ寔ニ其ノ權能ニ托シテ時ニ此ノ國ノ法律及特權ニ反シ陛下ノ臣民ヲ死ニ致スコトアルヲ恐ル、ニ出ツルナリ

第十一條 凡ソ臣等ノ誠惶誠恐以テ至尊陛下ニ請フ所ノモノハ此ノ國ノ法律ニ從ヒ臣等ノ權利自由トシテ授ケラレムコトヲ請フモノナリ仰キ希クハ陛下勅ヲ發シテ前來掲クルカ如キ人民ニ害ヲ與フル所ノ授權、行動、手續ハ將來何等ノ因タラシメス將タ典例トナサルコトヲ宣示シ玉ハムコトヲ又願クハ人民ノ幸福安全ヲ將來ニ増進セムカ爲メニ優渥ナル御詞ヲ發シテ陛下ノ百官臣僚ハ前記諸項ニ付キ能ク此ノ國ノ法律ニ遵依シ忠誠以テ陛下ニ奉仕シ以テ陛下ノ盛德ヲ宣揚シ以テ斯ノ國ノ繁榮ヲ増進スルヲ努ムヘキ旨ヲ宣示セラレムコトヲ

右ニ對シ議會ニ於テ勅答シ玉フ其ノ詞ニ曰ク宜シク汝等ノ好ム所ヲ以テ法ト爲セヨト

權利法典(Bill of Rights)(紀元千六百八十九年、ウヰリヤム三世王及メリーエ)

女王卽位第一年)

第一條

ウエストミンスターニ集同シタル僧俗貴族及庶民ハ此ノ國ノ人民ノ總テノ階級ヲ適法ニ完全ニ且ツ自由ニ代表シ我主ノ千六百八十八年二月十三日ヲ以テ各其ノ適當ノ資格ヲ以テ在席アラセタマヘル當時ヲレンヂ公及女公ウヰリヤム及メリーナル名稱ヲ以テ稱呼セラレ且ツ知ラレタル兩陛下ニ右貴族及庶民ノ作リタル書面ヲ捧呈シタリ其ノ辭左ノ如シ

先王ゼームス第二世ハ其ノ使役シタル種多ノ惡逆ナル顧問官裁判官諸重官ノ補助ニ依リ次ノ諸方法ヲ以テ「プロテスタント」教耶蘇新教ノ一派及此ノ王國ノ法律及自由ヲ打却滅盡セムコトヲ計レリ卽チ

第一 議會ノ承諾ヲ經スシテ法律及法律ノ執行ヲ省除(Dispensing)且ツ停

止(Suspending)スルノ權力ヲ取リ且ツ行フコトニ依リ

第二、右ノ權力ニ服從スルヲ宥免セラレムコトヲ誠恐以テ請願セルカ
爲メニ諸多ノ高貴ナル僧侶ヲ繫獄處刑スルコトニ依リ

第三、宗教上ノ事件ニ關スル委員裁判所ト稱スル裁判所ヲ創設スルニ
付テ國璽ヲ鈐シタル委任狀ヲ發シ且ツ之ヲ實行セシメタルコトニ依リ

第四、議會ノ許與シタル所ニ異ナリタル時期ニ於テ又之ト異ナリタル方

法ヲ以テ大權ヲ名トシ國王ノ使用ニ供スル財金ヲ徵收スルコトニ依リ

第五、議會ノ承諾ヲ經スシテ平和ノ時ニ於テ此ノ王國ノ内ニ常備軍ヲ徵
發保續シ且ツ法律ニ背キテ兵士ヲ宿舎セシムルコトニ依リ

第六、羅馬教徒ハ武裝シ且ツ法律ニ反シテ從軍セシメラル、ニ同一ノ場
合ニ於テ諸多ノ良民ニ對シテハ其ノ「プロテスタン」教徒ナルノ故ヲ以
テ武裝スルヲ禁スルコトニ依リ

第七、議會ニ於テ奉仕スヘキ議員ヲ選舉スルノ自由ヲ破ルコトニ依リ

第八 獨リ議會ノミ闢與シ得ヘキ事項ニ付キ國王坐席裁判所 (Court of King's Bench)ニ於テ處斷ヲ爲スコトニ依リ其ノ他種々ノ專横且ツ違法ノ手續ヲ爲スニ依リ

第九 又近年偏頗、破廉恥ニシテ不適任ナル者審判ニ參與スル陪審官ニ選ハレ其ノ役ヲ勤メタリ殊ニ重反逆罪(High Treason)ニ對スル審判ニ參與スヘキ種々ノ陪審官ニ於テ然ルヲ見タリ又此ノ陪審官ハ自由領地人ニアラサリキ

第十 刑事事件ヲ以テ繫獄セラレタル被告人ヨリ過當ノ保釋金ヲ要求シ臣民ノ自由ノ爲メニ定メラレタル法律ノ利益ヲ剝奪セムトシタリ
第十一 又過當ノ罰金ヲ課シ違法且ツ殘忍ナル刑罰ヲ加ヘタリ
第十二 又罰金及沒收ノ制裁ヲ課スヘキ犯人ニ對スル裁斷(Conviction)又ハ判決(Judgement)アル前ニ於テ豫メ其ノ罰金及沒收ニ付キ種々ノ特許約束ヲ爲シタリ

總テ以上ノ條々ハ此ノ國ノ法律及自由ニ全ク且ツ直接ニ反對スルモノナ

又先王モニムス第二世ハ此ノ政府ヲ退キ王位ハ之ニ依リテ空虚トナリタ
ルヲ以テオレンジ公殿下(全能ナル眞神ハ殿下ヲ以テ此ノ王國ヲ羅馬教ノ
專横チル權力ノ下ヨリ救助スルノ名譽アル器械タラシメムコトヲ欲シタ
マウ)ハ書ヲ具シテ「プロテスタント教徒ナル僧俗貴族ニ送リ又別ニ書ヲ數
多ノ郡府等ニ送リ(是レ僧俗貴族ト庶民中ノ種多ノ主モナル人ノ勸奨ニ依
レル所ナリ)以テ彼レ等ノ宗教法律及自由カ復タ打却セラルヽノ危險ニ際
會セサラムコトヲ確定スルカ爲メニ彼等ヲ代表シ千六百八十八年一月二
十二日ウエストミヌスターニ集同開議スヘキ議會ニ權利トシテ出席スヘ
キ人物ヲ選舉セシメタリシニ此ノ書狀ニ基ツキ選舉ノ事行ハレタリ

又斯クノ如クニシテ僧俗貴族及庶民ハ各其ノ書狀及選舉ニ因リ今ヤ此ノ
國民ノ完全且ツ自由ナル代表者トシテ集同シ前記ノ諸目的ヲ達スル最良
手段ニ付キ最モ慎重ナル熟議ヲ遂ケ先ツ第一ニ(彼等ノ祖先カ同様ノ場合
ニ於テ通常行ヒタルカ如ク彼等ノ古來ノ權利及自由ヲ顯表確立セムカ爲

メ次ノ如ク公示ス

第一 議會ノ承諾ヲ經シテ王權ニ依リ态ニ法律ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ執行ヲ停止スルノ虛偽ノ權力ハ違法ナリ

第二 近時取得且ツ實行セラレタルカ如ク王權ニ依リ法律ヲ省除シ又ハ法律ノ執行ヲ廢止スルノ詐稱ノ權力ハ違法ナリ

第三 近時ノ宗教上ノ事件ニ關スル委員裁判所ヲ設置スルノ委任其ノ他之ニ類スル委任及裁判所ハ悉ク違法且ツ有害ナリ

第四 議會ノ許與ナクシテ大權ヲ名トシ議會ニ依リテ許與セラレ又ハ許與セラルヘキ時期ヨリハ長ク又其ノ場合ト方法トヲ異ニシテ國王ノ使用ニ供スル爲メ財金ヲ徵收スルハ違法ナリ

第五 國王ニ請願スルハ臣民ノ權利ナルカ故ニ斯カル請願ヲ爲シタルカ爲メニ人ヲ繫獄シ又ハ處斷スルハ違法ナリ

第六 議會ノ承諾ヲ以テスルニアラサレハ平和ノ時ニ於テ王國內ニ常備兵ヲ徵發且ツ保續スルハ法律ニ反スルモノナリ

- 第七 凡ソ「ブロテスターント」教徒ナル臣民ハ其ノ身分ニ相應スル武器ヲ
自衛ノ爲メニ携帶スルヲ得ヘク法律ハ之ヲ許スヘシ
- 第八 議會ノ議員選舉ハ須ク自由ナラサルヘカラス
- 第九 議會ニ於ケル言論ノ自由、討議及ヒ議事手續ハ議會ノ外ニ在リテ
裁判所其ノ他何等ノ場所ニ於テモ訴告將タ責問セラルヘカラス
- 第十 過當ノ保釋金ハ之ヲ求ムヘカラス過當ノ罰金ハ之ヲ課スヘカラ
ス殘忍異常ノ刑罰ハ之ヲ加フヘカラス
- 第十一 凡ソ陪審官ハ適當ニ登錄セラレ且ツ選舉セラルヘシ又重反逆
罪ニ關ル審判ニ附セラレタル人ヲ審理スル陪審官ハ自由領地人ナラ
サルヘカラス
- 第十二 裁判ニ先チ特定ノ人ニ就キ罰金及沒收ニ關スル特許及約束ヲ
爲スコトハ悉ク違法且ツ無效ナリ
- 第十三 又總テノ苦情ヲ救正セムカ爲メ及法律ヲ修正レ鞏固ニシ保全
セムカ爲メニ議會ハ屢々開設セラレサルヘカラス

僧俗貴族及庶民ハ其ノ疑フヘカラサル權利及自由ナリトシテ前記諸條項(全般ニ且ツ各別ニ)ヲ要求シ且ツ確執ス是等諸條ノ何レノ點ニ關スルヲ問ハス凡ソ人民ノ障害ニ歸スヘキ公示、裁判、行爲、手續等ハ將來依リテ以テ何等ノ結果ヲモ生スヘカラス將タ何等ノ例示タルヘカラス
斯ク權利ヲ要求スルニ付キテ僧俗貴族及庶民ハ斯ノ權利ニ付キテ充分ノ救濟ヲ受クル唯一ノ手段タルオレンジ公殿下ノ公示ニ依リ殊ニ獎勵セラル、所アリ

乃チオレンジ公殿下ハ其ノ既ニ歩ヲ進メタル救正ノ業ヲ遂ケタマヒ尙ホ亦貴族及庶民カ此ニ確定シタル權利ノ侵害ヨリ其ノ他其ノ宗教、權利、自由ニ對スル一切ノ企圖ヨリ貴族及庶民ヲ保全シタマハムコトヲ確信ス

第二條 僧俗貴族及庶民ウエストミヌスターニ集同シ次ノ如ク決定ス即チオレンジ公及同女公タルウヰリヤム及メリ一ハ英蘭法朝西愛爾蘭及是等ニ屬スル諸領土ノ國王及女王タリ又斯ク宣言セラル兩殿下在世中及其ノ中ニテ

生存シ残リタマフ一方ノ在世中王國及領土ノ王位及王威ヲ保チタマフ又王
權ノ專有且ツ完全ナル執行權ハ公及女公ノ在世中ニ在リテハ獨リオレンジ
公ニ存シ同公ハ其ノ名及同女公ノ名ニ於テ之ヲ行ヒタマヒ其ノ逝去ノ後ハ
王國及領土ノ王位及王威ハ同女公ノ肉緣ノ繼嗣之ヲ受ク若シスカル繼嗣ナ
キトキハデシマルクノ女公アン及其ノ肉緣ノ繼嗣之ヲ受ク若シ又スカル繼
嗣ナキトキハ前記オレンジ公ノ肉緣ノ繼嗣之ヲ受クヘシ而シテ僧俗貴族及
庶民ハ此ニ前記公及女公ニ此ノ議定ヲ容レラレムコトヲ懇請スルモノナリ
第三條 僧俗貴族及庶民ハ更ニ議定ス凡ソ法律ニ於テ忠勤及最高權ニ關スル
宣誓ヲ爲スベキ者ハ將來次ニ記載スル誓約ヲ爲スヘシ而シテ從來ノ忠勤及
最高權ニ關スル宣誓ハ以後之ヲ廢止スヘシ

自分何某ハウヰリヤム王陛下及メリ一女王陛下ニ對シ誠實ニシテ堅ク真正
ノ忠義ヲ盡スベキコトヲ誠意以テ約シ且ツ誓フ

神明夫レ我レヲ祐ケヨ

自分何某ハ羅馬法王又ハ羅馬宗(See of Rome)ヨリ出ツル或ル權能ニ依リテ破

門又ハ貶黜セラレタル國君ニ付テハ其ノ臣民ニ於テモ亦之レカ位冠ヲ剝キ
又ハ之ヲ弑戮シ其ノ他如何様ニモ爲スコトヲ得ヘシト稱フル暴惡ナル教旨
ヲ以テ邪宗異端トシ精神ヨリ嫌憎厭忌シテ必ス之ヲ排斥スヘキコトヲ誓フ
又自分ハ國外ノ君王常人、高僧國又ハ權能ハ此ノ國土ノ内ニ於テ何等ノ裁判
權權力最高權高位或ハ宗教上將タ精神上ノ權威ヲ有セス又有スヘキモノニ
アラサルコトヲ宣言ス

神明夫レ我レヲ祐ケヨ

第四條 斯ノ如クニシテ兩陛下ハ前記宣言書ニ含ム所ノ貴族及庶民ノ決議及
希望ニ從ヒ英蘭法朝西愛爾蘭ノ三王國及是等ノ國ニ屬スル諸領土ノ王位及
王威ヲ享受シタマヘリ

第五條 又右ニ因リテ兩陛下ハ僧俗貴族及庶民カ議會ノ兩院ヲ成シ引續キ集
同シ兩陛下ノ准認ヲ經テ此ノ王國ノ宗教、法律、自由ノ確立ニ關シ有效ナル條
規ヲ設定シ以テ是等ノ將來再ヒ破却セラルゝノ危險ニ際會セサラムコトヲ
欲シタマヘリ僧俗貴族及庶民ハ異議ナク之ニ贊同シ且ツ之ニ從ヒテ著手シ

第六條 今ヤ前條項ニ從ヒ僧俗貴族及庶民ハ集同シタル議會ニ於テ議會ノ權能ヲ以テ適當ノ方式ニ於テ制定セラレタル法律ノ效力ニ依リ前記宣言及其ノ中ニ含ム條款事項ヲ追認シ鞏固ニシ確實ニスルノ目的ヲ以テ次ノ如ク宣言規定セラレムコトヲ陛下ニ請願ス即チ前記宣言中ニ確認且ツ要求セラル權利及自由ハ全般ニ且ツ各別ニ此ノ王國ノ人民ノ真正ノ古來襲行スル明白ナル權利及自由ニシテ人モ亦皆ナ斯ク考慮認定判斷思惟了解シ前記宣言中ニ明示セラル、如ク前記各項ハ全體且ツ各別ニ確然且ツ嚴然遵依保守セラルヘシ而シテ百官有司ハ悉ク將來ニ於テ右宣言ニ從ヒ兩陛下及陛下ノ繼嗣ニ奉仕スヘシ

第七條 僧俗貴族及庶民ハ陛下ノ祖先ノ王位ニ即キテ吾人臣民ヲ治メタマヘル兩陛下ノ玉體ヲ最モ幸福ニ保全スルハ(僧俗貴族及庶民ハ此ノ事ニ關シ其ノ肺肝ヨリ最モ恭謙ナル感謝ノ意ヲ眞神ニ致スモノナリ)全能ナル神明ノ驚クヘキ職掌及其ノ此ノ國民ニ對スル優渥ナル良感ニ於テ如何ニ神意ニ適フ

カヲ慎重ニ考慮シタル上此ニ真正且ツ確然ニ誠意ヲ以テ次ノ事項ヲ考覈シ
且ツ之ニ依リテ其ノ事項ヲ識認且ツ宣言ス即チゼームス第二世王ハ政府ヲ
退キ兩陛下既ニ王位及威嚴ヲ受ケタマヒタリ乃チ兩陛下ハ此ノ國土ノ法律
ニ依リテ吾等ノ主上及后上タル英蘭法朝西愛爾蘭及是等諸國ニ屬スル諸領
土ノ王及女王ト成リタマヒ過去既ニ王及女王ニシテ又現ニ然リ且ツ權利上
當然然ルヘク而シテ此ノ國土ノ王位及王威ハ之ニ附屬スル總テノ榮譽記號
名稱王權大權權力裁判權及權能ト共ニ最モ十分ニ正當ニ且ツ完全ニ玉體ニ
聯結附著スルモノナリ

第八條 王位ニ對シ虛偽ノ權利ヲ主張シ爲メニ此ノ國內ニ種々ノ紛議ヲ生ス
ルヨトナカラムカ爲メニ又王位繼承ノ確固ヲ保全セムカ爲メニ僧俗貴族及
庶民ハ兩陛下ニ奏請スルニ前記諸王國及諸領土ノ王位及王權ハ之ニ屬スル
諸條項(全般ニ且ツ各別ニ)ト共ニ兩陛下在世間ハ兩陛下ニ又其ノ中一方世ヲ
去リ給フトキハ生存シ殘リタマウ一方ノ在世間存在シ且ツ引續キ存留スヘ
キコトヲ規定且ツ宣示セラレムコトヲ以テス又王權及王政ノ完全無缺ナル

執行權ハ兩陛下共ニ在世ノ間ハ兩陛下ノ名ニ於テ獨リ國王ニ存在シ且ツ國王ニ依リテ行ハルヘク兩陛下崩御ノ後ハ王位及諸條項ハ女王肉縁ノ繼嗣ニ存在シ又殘留スヘク若シ斯カル繼嗣ナキトキハデシマルク女公アン殿下及其ノ肉縁ノ繼嗣ニ存在シ且ツ殘留スヘク又若シ斯カル繼嗣モナキトキハ國王陛下肉縁ノ繼嗣ニ存在シ且ツ殘留スヘシ僧俗貴族及庶民ハ人民全體ノ名ニ於テ至恭至誠彼レ等自身ヨリ其ノ子々孫々ニ至ルマテ永遠ニ此ノ事ヲ遵奉シ敢テ渝ユルユトナカルヘク尙ホ進ムテ誠意ニ次ノ約束ヲ爲ス即チ彼等ハ全力ヲ盡シ其ノ生命財産ヲ提ケテ兩陛下ノ爲メニ又此ニ特定列記セラル王位ノ限定及繼承ノ爲メニ輔翼支持防禦ノ任ヲ盡シ以テ何人ニテモ之ニ反對ノ所爲ヲ試ムル者ヲ掣壓スヘシ

第九條 羅馬法王ノ權ニ服從スル君主又ハ法王ノ教徒ト結婚セル國王又ハ女王ノ支配ヲ受クルハ此プロテスタント教國ノ安固及平和ト相容レサル所ナルコトハ經驗ノ示ス所ナルヲ以テ僧俗貴族及庶民ハ更ニ進ムテ次ノ如ク規定セラレムコトヲ陛下ニ奏請ス即チ何人タリトモ羅馬宗又ハ羅馬寺院ニ現

ニ一致スル者又ハ將來一致スヘキ者又ハ之ト交通ヲ保ツヘキ者將タ又法王
教ヲ公信シ或ハ法王ノ教徒ト結婚スル者ハ此ノ國、愛爾蘭及是等ニ屬スル領
土又ハ是等ノ一部分ノ王位及政權ヲ相續掌握將タ享有シ或ハ右等ノ中ニ於
テ何等ノ王權、權能、管轄權ヲモ領有、使用將タ執行スルコトヲ拒マレ且ツ永遠
ニ是等ノ能力ヲ有セサルヘシ又若シ此ノ如き場合ヲ生セハ此ノ國ノ人民ハ
悉ク其ノ忠勤ノ義務ヲ免除セラルヘシ而シテ王位及政權ハ「プロテスタント」
教徒ニシテ且ツ當然之ヲ相續享有スヘキ人常ニ之ヲ相續且ツ享有スヘシ若
シ是等ノ人羅馬教徒ト一致交通ヲ保チ信仰ヲ公ニシ又ハ結婚スルトキハ自
然ニ死亡シタル者ト同視スヘシ

第十條 凡ソ此ノ國ノ王及女王ニシテ將來何ノ時ニ於テモ此ノ王國ノ王位ニ
登ル場合ニ至リ之ヲ繼承スル者ハ即位後ノ第一議會集同ノ第一日ニ此ニ集
同シタル貴族及庶民ノ面前ナル貴族院ニ在ル玉座ニ著席シテ或ハ國王又ハ
女王ノ即位式ノ場合ニ於テ即位ノ宣誓ヲ爲ス時其ノ宣誓ヲ司掌スル人ノ面
前ニ於テチャールス第二世王ノ治世第十三年ノ制定ニ係ル「羅馬教徒ニ國會

兩院ニ著席スルノ權能ヲ拒否シ以テ國王ノ身體及政治ヲ更ニ有效ニ保全スルヲ計ルノ法ト稱スル法律中ニ記載スル宣言ヲ爲シ之ヲ約束シ且ツ聞キ得ヘキ様反覆スヘシ然レトモ若シ國王又ハ女王ノ此ノ國ノ王位ヲ繼承スル時ニ於テ其ノ年齢十二歳未滿ナルトキハ其ノ卽位式ノ時ニ於テ又ハ十二歳ニ達シタル後初メテノ議會集同ノ第一日ニ於テ宣言ヲ爲シ之ヲ約シ且ツ聞キ得ヘキ様反覆スヘシ

第十一條 凡ソ兩陛下ニ於テ満足ヲ表シタマフ所ノ事項ハ此ノ現議會ノ權能ニ依リ宣示規定且ツ確立セラルヘク而シテ永久此ノ國ノ法律トシテ存在スヘシ又右ノ事項ハ集同シタル議會ニ於ケル僧俗貴族及庶民ノ勸獎承諾及其ノ權能ニ依リ兩陛下之ヲ宣示規定且ツ確立スルモノナリ

第十二條 前記ノ權能ニ依リ更ニ次ノ如ク宣示且ツ規定ス卽チ現時ノ議會會議以後ハ或法律又ハ其ノ一部ニ付キ其ノ效果ヲ免除スルノ例ヲ許スヘカラス此ノ如キハ全ク無效ニシテ何等ノ效力ヲ有セス但シ該法律ニ於テ此ノ事ヲ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス又此ノ議會會期間ニ法律トナルヘキ一二ノ法

案中ニ特ニ規定シタル場合ニ付キテモ亦然リトス

第十三條 前數條ノ如ク規定スト雖モ我主ノ一千六百八十九年十月二十三日以前ニ許與セラレタル特許准許特免ハ此ノ法典ニ依リテ毫モ侵害セラレ又ハ廢棄セラル、モノニアラス是等ハ法律上此ノ法典制定前ノ如ク依然其ノ效力ヲ有シ猶ホ此ノ法典ノ嘗テ制定セラレサリシニ異ナラサルヘシ

皇位確定法(Act of Settlement)(紀元千七百年ウヰリヤム第三世王卽位第十三年)

皇位ニ一層進ミタル限定ヲ爲シ又臣民ノ權利自由ヲ更ニ確保スル爲メノ法律

第一條 陛下及至仁ナル故后メリ一女王ノ御宇ノ第一年(幸福ナル紀念)ニ於テ「臣民ノ權利及自由ヲ宣示シ且ツ王位ノ繼承ヲ確定スル法律」ト名シタル議會ノ法律制定セラレ其ノ中ニ次ノ事項他ニモ規定セラレタル事項アルカ中ニ)ヲ規定確立且ツ宣示セリ即チ英蘭法朝西及愛爾蘭ノ諸王國及是等ニ屬スル

諸領土ノ王位及王政ハ陛下及故女王ノ共ニ在世シタマフ間ハ陛下及同女王ニ存シ且ツ引續キ其ノ生存シ残リタマフ一方ニ存スヘク陛下及女皇ノ崩御ノ後ハ故女王ノ肉縁ノ繼嗣ニ存在シ且ツ殘留スヘク若シ又此ノ如キ繼嗣ナキトキハデンマルクノ女公アン殿下及其ノ肉縁ノ繼嗣ニ傳ヘ其ノ之ナキトキハ陛下ノ肉縁ノ子孫ニ傳フヘシト同法律ハ更ニ進ムテ凡ソ當時又ハ後日羅馬宗又ハ羅馬寺院ニ一致スル者又ハ之ト交通ヲ保ツ者又ハ羅馬法王教ヲ公信シ將タ同教徒ト結婚スル者ハ此ノ國及愛爾蘭及是等ニ屬スル諸領土又ハ其ノ一部ノ王位及政權ヲ相續掌握享受シ或ハ右等ノ中ニ於テ何等ノ王權、權能又ハ管轄權ヲ領有使用將タ執行スルコトヲ拒マルヘク且ツ此ノ法律ニ依リ永遠ニ是等ノ能力ヲ有セサルモノト規定セリ又總テ此ノ如キ場合ニ於テハ此ノ國ノ人民ハ悉ク其ノ忠勤ノ義務ヲ免除セラルヘシト規定シ更ニ進ムテ王位及政權ハプロテスタンント教徒ニシテ且ツ當然之ヲ繼承享有スヘギ人常ニ之ヲ相續且ツ享受スヘシ若シ是等ノ人羅馬教徒ト一致交通ヲ保チ信仰ヲ公ニシ又ハ結婚スルトキハ自然ニ死亡シタル者ト同視スヘシト規定シ

タリ右ノ法律及其ノ中ニ包含スル確定事項ノ制定後ハ陛下ノ良民ハ陛下カ
人民ノ宗教權利自由ノ完全且ツ自由ナル享受ヲ復舊セムカ爲メニシタマフ
貞業及力行ニ成效ヲ與フル神明ノ天職ニ依リ是レ等ノ完全自由ナル享受ヲ
復舊スルヲ得タルヲ以テ此ノ上ニ次ノ一事ヲ希望スルノ外更ニ復タ他ニ得
ムト欲スル更ニ大ナル現世ノ福祉ヲ知ラサリシ之レ他ナシ此ノ良民カ平和
(神明ノ力ニ依リ)ノ恩ヲ受ケ其ノ祖先多年ノ間歐羅巴ノ改革宗教及自由ノ主
ナル確立者タル今上陛下ト此ノ國ノ臣民ノ常ニ貴重スル至仁ナル女王陛下
トニ出ツル皇裔ヲ得ムコトヲ切望セリ然ルニ女王及前途最モ多望ナリシグ
ロスター公ウヰリヤムハ全能ノ神之ヲ取り去リタマヒ陛下及此ノ臣民ノ言
フヘカラサル悲歎愁悼ヲ來セリ此ノ臣民ハ斯カル困扼ニ際シテ尙ホ陛下及
女王長壽ヲ保チタマヒ陛下又ハ女王ニ前記法律中ニ規定スル各限定ニ依リ
王位及王政權ヲ繼承スヘキ相續者ヲ得セシムルハ全ク全能ナル神明ノ意ナ
リト思惟シ終始此ノ慶福ニ付キテ天惠ヲ祈リタリ又此ノ臣民ハ常ニ陛下カ
斯ク諸王國ノ現在及將來ニ於ケル平和ニ付キ深ク軫念ヲ勞サセタマフコト

ヲ了認シ殊ニ國家ノ慶福宗教ノ安固ノ爲メニ「プロテスタント派」ノ王位繼承ニ關シ更ニ充分ナル規定ヲ設クヘシトスルノ觀慮ノ存スルヲ知ル者ナリ又此ノ臣民ハ前記法律ニ於ケル限定ノ範圍ヲ出テ、別ニ據ルヘキ規定ヲ見サル場合ニ於テ王位ニ對シ虛偽ノ權利ヲ主張スル者ヲ生シ爲メニ王位繼承ノコトニ付キ疑念爭議ヲ來スコトアルヲ防キ又豫メ此ノ繼承ノコトヲ確定シ置キテ以テ陛下ノ臣民カ事ニ臨ミ安全ニ依頼シ自ラ保護スルヲ得ヘキ方法ヲ求ムルニ備フルハ此ノ國ノ平和安固ノ爲メニ必要ニシテ缺クヘカラサルコトナリト思惟ス是等ノ故ヲ以テ「プロテスタント派」ノ王位繼承ニ付キ更ニ進ムテ規定スル所アラムコトヲ欲シ陛下ノ最モ忠誠ナル臣民タル僧俗貴族及庶民ハ集同シタル現議會ニ於テ陛下ニ奏請スルニ至尊陛下ハ集同シタル現議會ニ於ケル僧俗貴族及庶民ノ勸獎及承諾ヲ經且ツ其ノ權能ニ依リ次ノ如ク規定且ツ宣示スルコトヲ得又實ニ斯ク規定且ツ宣示セラレムコトヲ以テス卽チ故王ゼームス第一世ノ女故ボヘミヤ女王ナル至尊エリサベスノ女ニレテハノヴワーノ女主至尊ソフヰヤ女公ハ「プロテスタント派」ノ英蘭法朗

西及愛爾蘭諸國及是等ニ屬スル諸領土ノ王位及王威繼承ノ順序ニ於テ今上陛下及デンマルク女公アンノ後アン女皇ノ肉緣ノ繼嗣及今上陛下ノ肉緣ノ繼嗣ナキ場合ニ次位ニ來ルヘキ者トス即チ今上陛下及デンマルク女公殿下崩御セラレアン女公及陛下共ニ肉緣ノ繼嗣ナキトキハ英蘭法朝西及愛爾蘭王國及是レ等ニ屬スル諸領土ノ王位及王政ハ是等國土ノ王家ノ尊嚴及之ニ屬スル榮譽、王權、大權、權力、管轄權及權能ト共ニ至尊ナルソフヰヤ女公及其ノ肉緣ノ繼嗣ノ「プロテスタント」教徒タル者ニ存在シ殘留シ引續クヘシ僧俗貴族及庶民ハ此ノ國ノ總テノ人民ノ名ニ於テ彼レ等自ラヨリ其ノ子孫々ニ至ルマテ至恭至誠此ノ事ヲ進行スヘキコトヲ表明シ且ツ誠實ニ次ノ約束ヲ爲ス即チ今上陛下アン殿下崩御ノ後各其ノ肉緣ノ繼嗣ナキトキハ貴族及庶民ハ此法律中ニ特定包含スル王位ノ限定及繼承ニ從ヒ其ノ力ヲ盡シ生命財產ヲ提ケテ「プロテスタント」教徒ナルソフヰヤ女公及其ノ肉緣ノ繼嗣ヲ輔翼且ツ保護シ何人タリトモ之ニ對シ何等反對ノ企ヲ爲ス者ヲ防遏スヘシ

第二條 然レトモ凡ソ此ノ法律ノ限定ニ依リ前記王位ヲ繼承スヘキ者羅馬宗

又ハ羅馬寺院ト現ニ一致シ又ハ將來一致スヘキトキ又ハ之ト交通ヲ保チ或ハ法王教ヲ公信シ將タ羅馬教徒ト結婚スルトキハ之ヲシテ法律カスノ如き場合ニ就キ規定且ツ確定スル不能力者タラシムヘシ又凡ソ此ノ法律ニ依リテ此ノ王國ノ王位ヲ受クヘキニ至リ之ヲ繼ク所ソ此ノ國ノ國王及女王ハ各々其ノ即位式ニ於テ今上陛下及故女王メリノ共同ノ御宇第一年ニ制定セラレタル「即位式宣誓ヲ確定スルノ法律」ト號スル議會ノ法律ニ從ヒ國王及女王ノ爲メニ行フ即位宣誓式ヲ踐キヘク又前キニ第一ニ引照記載セル營律中ノ宣示ヲ其ノ規定スル方法及形式ニ於テ行ヒ且約シ且ツ反覆スヘシ即チ之ニ依リテ茲ニ此ノ規定ヲ設クルナリ

第三條 今上陛下及デンマルクノアン女公ノ崩御後同女公及今上陛下ノ肉縁ノ繼嗣ナキ場合ニ於テ我レ等ノ宗教、法律及自由ヲ安保スルニ更ニ進ミタル規定ヲ設タルハ必要ノコトタルヘキニ因リ至尊ナル國王陛下ハ集同シタル議會ニ於ケル僧俗貴族及庶民ノ勸獎承諾ヲ經且ツ其ノ權能ニ依リテ次ノ如ク規定セラルヘシ即チ

何人ニテモ以後此ノ王位ニ登ル者バ法律ヲ以テ確定スル所ニ從ヒ英蘭寺院ト交通ヲ保ツヘシ

又此國土ノ王位及威嚴カ將來英蘭王國ノ出生者ニアラサル者ニ歸スルトキハ此ノ國民ハ議會ノ承諾アルニアラサレハ英蘭王位ニ屬セサル領土ノ防護ノ爲メニスル交戰ニ從事スルノ義務ヲ有セサルヘシ

又何人タリトモ將來此ノ王位ニ登ル者ハ議會ノ承諾ナクシテ英蘭蘇格蘭或ハ愛爾蘭ノ領土ノ外ニ往カサルヘシ

又此ノ法律ヲ以テ規定スル一層進ミタル限定ノ效力ヲ生スル時ヨリ後ハ樞密院カ此國ノ法律及慣習ニ依リ適當ニ關與スヘキ事項ニシテ此ノ王國ノ良政ニ關スルモノハ悉ク同院ニ於テ處置セラルベク而シテ其ノ院ニ於テ行ハレタル決議ハ之ニ付キテ勸獎承諾ヲ與フル樞密院議官ノ名ヲ署スヘシ

又前記ノ限定ノ效力ヲ生スル後ハ英蘭、蘇格蘭又ハ愛爾蘭ノ諸王國又ハ是レ等ニ屬スル領土ノ外ニ生レタル者英國人ナル兩親ヨリ生レタル者ヲ除

キテ假令ヒ歸化人タリトモハ樞密院議官タリ又ハ議會兩院中ノ議員タルコトヲ得ス又民事ト軍事トヲ問ハス何等信托ノ官又ハ地位ヲ享ケ又彼レ又ハ彼レノ信托者ハ國王ヨリ土地、借地等ヲ受クルヲ得ス

又何人タリトモ國王ヨリ利得アル官又ハ地位ヲ受ケ又ハ國王ヨリ恩金ヲ受クル者ハ庶民院ノ議員トシテ奉仕スルコトヲ得ス

又前記ノ限定效力ヲ生スル後ハ裁判官ノ委任ハ其ノ良行ノ續ク間依然シテ存スヘキモノナリ然レトモ議會兩院ノ奏請アルトキハ之ヲ勅免スルコトヲ得ヘシ

又英蘭ノ國璽ヲ以テスル特免ハ議會ニ於ケル庶民院ノ彈劾ニ對シ免責ノ理由トナスニ足ラス

第四條　英國ノ法律ハ英國民ノ生レナカラ保有スル權利ニシテ此ノ國ノ王位ニ上ルヘキ國王及女王ハ此ノ國法ニ從ヒ其ノ國政ヲ掌ルヘク百官有司亦之ニ從ヒテ各之ニ奉仕スヘキモノナルヲ以テ僧俗貴族及庶民ハ更ニ進ムテ次ノ事項ヲ請願ス即チ此ノ國ノ確定シタル宗教及權利自由ヲ保安スル此ノ國

ノ總テノ法律其ノ他現ニ行ハル、此ノ國ノ一切ノ法律ハ之ヲ追准且ツ確認
シ得ヘク乃チ陛下ハ僧俗貴族及庶民ノ勸奨及承諾ヲ經且ツ其ノ權能ニ依リ
テ之ヲ追准且ツ確認スヘシ

2410

1

明治二十八年九月二十一日印刷

(非賣品)

印刷者
衆議院事務局
印 刷 局

5482

